

## 外国人 SW の現状調査と効果的な介入方法

研究分担者 青山 薫 (神戸大学)  
研究協力者 畑野とまと (SWASH)  
山口 治男 (神戸大学)

### 研究要旨

日本で働くセックスワーカー (SW) の中には、外国人も存在する。そして、外国人 SW も、性感染症の感染リスクが高い層である。しかし、外国人 SW は、外国人でない SW よりも法社会的立場が脆弱であり、その影響で感染リスク行動をとる可能性もより高いことが先行研究によって指摘されている。他方、外国人 SW はその脆弱性のために、脆弱性を克服するようなネットワークへのアクセスが困難にもなる。そして、このような社会資源に届かない立場にいる外国人 SW には、調査研究者も接近が困難であることもすでに明らかである。

そこで本研究では、まず少数でも現在日本で働いている外国人 SW にアクセスし、聞き取りのデータとネットワークデータを得て、その質的分析から、この人たちがどのようなネットワークの中にあり、どのような社会資源にアクセスできているのかいないのかを具体的に明らかにすることをめざす。そして、これを端緒として、脆弱性を克服するようなネットワークへの接続あるいは変換の理路をモデル化し、最終的に、外国人 SW とその雇用者等を対象に、実効性の高い HIV・STI 予防奨励と受検勧奨に向けた介入方法を検討したい。

外国人 SW に対する調査は、多国籍・多言語であることが予想される。そこで今年度は、まず、聞き取りによるネットワーク分析を単純化するための方法として、当事者と雇用者等から得た人間関係情報を図式化するソシオグラムを獲得した。これらのために、分担研究者が現在別途実施している性取引に関する国際共同研究からも知見を得ている。次に、アウトリーチ活動を行い、パイロットケースとして関東地方で 1 人と関西地方で 1 人の聞き取りを行った。

最終年である来年度に、アウトリーチ、聞き取り、ネットワークデータ収集を続け、明らかになった具体例に基づいて脆弱性克服モデルを構築し、対象者と関係者への HIV・STI 予防と受検を勧奨する介入方法を検討することをめざす。

### A. 研究目的

日本で働くセックスワーカー (SW) の中には、外国人<sup>1</sup> も存在する。そして、外国人 SW も、性感染症の感染リスクが高い層であること

は他の SW と同様である。しかし、外国人 SW は、外国人でない SW よりも法社会的立場が脆弱であり、それが感染リスク行動を促す構造的要因であることが先行研究で指摘されている<sup>2</sup>。

<sup>1</sup> 本研究では、入管法による「特別永住者」等の就労制限のない人々を除く日本国籍以外の国

籍を持つ「日本在留者」を指す。

<sup>2</sup> e.g. James Quesada, Laurie Kain Hart &

他方、外国人 SW はその脆弱性のために、脆弱性を克服するような社会資源にアクセスすることが困難にもなるが、この社会資源は人的ネットワークに代表される。そして、そのような社会資源に届かない立場にいるこの人たちには、調査研究者も接近が困難であることも、すでに明らかである<sup>3</sup>。

そこで本研究では、まず目標を少数に絞り、現在日本で働いている外国人 SW にアクセスし、聞き取りを行ってテキストデータとネットワークデータを得る。そして、その質的分析から、この人たちがどのようなネットワークの中にあり、どのような社会資源にアクセスできているのかいないのかを具体的に明らかにすることをめざす。さらにこれを端緒として、脆弱性を克服するようなネットワークへの接続あるいは変換の理路をモデル化し、最終的に、外国人 SW とその雇用者等を対象とした、実効性の高い STI/HIV 予防奨励と受検勧奨に向けた介入方法を検討したい。

## B. 研究方法

外国人 SW に対する調査は、多国籍・多言語で行うべきことが予想される。そこで今年度は、第一に、質問項目の設定から多言語への翻訳を経て、聞き取りによるネットワーク分析を単純化する方法を探求し、当事者と雇用者等から得た人間関係情報を図式化するソシオグラムを獲得した。第二に、アウトリーチ活動を行

い、パイロットケースとして 1 人と関西地方で 1 人の聞き取りを行った。なお、第一、第二のために、分担研究者が現在別途代表として実施している、性取引に関する国際共同研究<sup>4</sup> とも連携し、その共同研究者・協力者からも知見を得ている。

### 1. ネットワーク分析のためのソシオグラム

ネットワークデータ収集と分析は社会学に源泉を持つ研究調査方法であるが、現在さまざまな分野で応用されている。移民研究の分野でも、近年、移民の社会資源を明示する人的ネットワークに注目し分析する研究が出てきている。とくに、本分担研究が対象とする外国人 SW のような脆弱性の高いグループでは、ネットワーク自体に脆弱性や偏りが見え、その改善を目指す方向性も示されつつある。

しかしながら、ネットワークデータの収集にあたっては、まず必要なのは詳細な聞き取りであり、接近困難層への聞き取りの困難は先行研究が指摘してきたところである。エイズ対策研究事業でも、分担研究者が参加した 2012 の研究の報告にその経験が記載されている<sup>5</sup>。

また、聞き取りをされる側が脆弱性の高い人々の場合はとくに、関係する人や出来事、経験を思い起こし、それらの関係を評価することが重い負担となる可能性や、記憶が不確かになる可能性が高い。さらに、多国籍多言語の対象者を想定せざるを得ない本分担研究では、聞き

---

Philippe Bourgois (2011) 'Structural Vulnerability and Health: Latino Migrant Laborers in the United States', *Medical Anthropology*, 30:4, 339-362, DOI: 10.1080/01459740.2011.576725

<sup>3</sup> 例えば、青山薫 (2012) 「日本における移住セックスワーカー—社会的排除に遭う変化の体現者」落合恵美子・赤枝香奈子編『アジア女性と親密性の労働』京都大学出版, 238-304

<sup>4</sup> 日本学術振興会科学研究費助成 (基盤 B) 「移

住性取引再考—グローバル化の苦痛を軽減するための調査研究」および「グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの—聞き取りとネットワークの分析から」(国際共同研究強化 B)

<sup>5</sup> 青山薫・要友紀子・八木香澄 (2012) 「セックスワーカーとの協働による予防介入プログラムの開発と普及に関する研究」厚生労働科学研究費補助金 (エイズ対策研究事業) 平成 23 年度 分担研究報告書

取り相手と聞き手の間およびデータ解釈の際の、言語の壁による誤解が憂慮される。

これらの問題を克服するためには、1) 少なくとも接近し得た人に対する聞き取りの負荷を軽減すること、2) 調査者側にとって関心のあつた出来事や関係を対象者が回想することを容易にすること、3) データを図式化したり可視化して（聞き取りの最中には対象者ととも、解釈や分析の最中には協力者や研究者間で）確認することが必要となる。それを実現するためのツールが、本分担研究が採用した（具体例は下記）フィリピン大学のリッサ・ケイ・ケースズが開発したデータのソシオグラム化ツールである<sup>6</sup>。

## 2. アウトリーチと聞き取り

聞き取りを行うために、SWASH メンバーの協力を得て、アウトリーチ活動を行った。10月から準備をし、候補地を、関東地方では新宿地域、池袋地域、上野地域、町田地域、横浜地域、関西地方では大阪キタとミナミおよび三ノ宮とした。実際に行ったのは、新宿周辺と横浜市内、大阪キタに当たる梅田と十三周辺で、時期は、いずれの場所でも2月中の断続的な2週間、時刻は夜半から午前2時ごろにかけてである。前述のとおり、性風俗特殊営業店舗では外国人SWは原則として働くことができないため（働いていたとしてもそれは隠されているため）、アウトリーチは、街頭および性風俗特殊営業に該当しないいわゆる「〇〇エステ」を対象とした。

聞き取りについては、来日前後と現在の人間関係情報、STD 予防方法とその阻害要因、その他背景情報を中心に、半構造化インタビューを行った。これは、質問項目を設定しておきかつ

現場ではその項目すべてを網羅することや順番や正確な言い回しに囚われず、相手との会話の流れに応じて適切な応用を加える質的調査に代表的な聞き取り方法である。

（倫理面への配慮）

本分担研究は、外国人SW という特に脆弱性の高い人々を対象とするため、対象者へのプライバシーの保護とインフォームドコンセントについて特段の配慮を必要とする。したがって、「神戸大学大学院国際文化科学研究科における人を直接の対象とする研究に関する内規」に従い、研究倫理審査委員会による審査に合格したうえで調査を行った。

審査資料には、次の諸点を明記した。

- 1) 個人が特定できるような属性や調査地を明らかにしない旨配慮すること（個人情報保護にあたり、対象者についての情報を連結不可能匿名化すること）
- 2) 対象者には「調査協力をお願い」（別添）を手渡しし、口頭でも説明すること
- 3) 「調査協力をお願い」は、英語、中国語（簡体および繁体）、タイ語、フランス語、ポルトガル語、スペイン語、ルーマニア語に翻訳してあり、必要に応じて適切なものを渡すこと
- 4) 調査に対する同意書を求めることはせず、その代わりに、調査者側が同意を得て調査を行うことや守秘義務を守ること等を約束し、署名した「調査協力をお願い」を対象者に渡し、相手が必要に応じて保管するものであることを相手に伝えること。

## C. 研究結果

### 1. アウトリーチと聞き取り

新宿周辺では、この時期・時間に街頭に立つ

<sup>6</sup> Cases, R.K.C. (2021) 'Claims-Making and Recognition through Care Work: Narratives of Belonging and Exclusion of Filipinos in New York and London' in Schweiger, G. (eds)

*Migration, Recognition and Critical Theory*, Springer, Cham. [https://doi.org/10.1007/978-3-030-72732-1\\_6](https://doi.org/10.1007/978-3-030-72732-1_6)

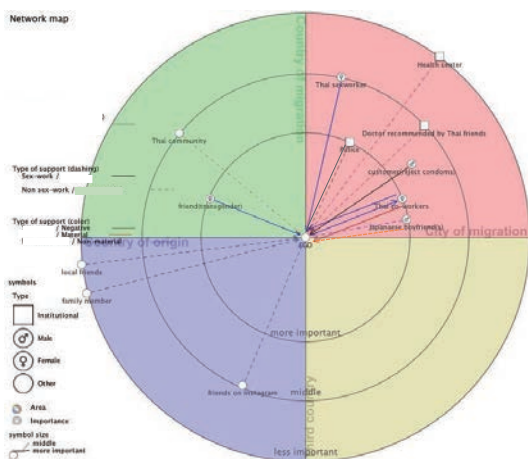
ていたのは、ごく少数の東アジア出身と見られる人たちだけで、会話することは断られた。横浜市内では、街頭に立つ8人と会話することができ、その内訳は、タイ人5人ロシア系という人3人であった。なおここで「〇〇人」とは、対象者の自己申告に基づいており、その根拠が国籍なのか出身地なのか等厳密には特定していない。うち、タイ人2人に聞き取りをすることができたが、本報告ではケースを1人に絞る。

梅田と十三の双方では、分担研究者が以前の調査研究でアウトリーチを行ったいわゆる「中国エステ」と「日本人エステ」を対象にした。

「日本人エステ」を含めたのは、「日本人エステ」と銘打つ店舗でも本分担研究が定義するところの「外国人」SWが働いている場合があるからである。この場合のSWは、外国人であっても入管法の就労資格制限の例外である「日本人の配偶者等」や、これらから派生した「永住者」といった、就労資格制限のない査証を得ているといわれる。梅田でも十三でも、コロナ感染症渦でほとんどの店が閉店または休業していたが、梅田で経営者とスペイン人SW各1人、十三で経営者と中国人SW1人と会話できた。うち中国人の1人を本報告のケースとする。

## 2. 聞き取りから得たネットワークソシオグラム

### ① 関東地方 T さんのケース/ソシオグラム



T さん（タイ人、40 歳、SRS 手術後のトラ

ンス女性）は、関東地方の繁華街で街頭に立って売春を行っている。査証は不明。日本語は初歩的である。

性労働に従事する前はタイに住んでおり、「キチントした仕事」はしていなかった。自らを振り返って、「頭が悪い」し「トランスジェンダーはタイでは仕事がありません [でした]」と言う。タイを離れたのは、家族がトランスジェンダーであることを認めてくれず、また、「その場を離れなければ生活することができなかった」からだと言う。そして、「タイにもセックスワーカーはいますが、稼ぐことができません」と付け加える。タイを離れる前には、トランスジェンダー仲間から、日本ではセックスワークで稼げると聞いていた。

性労働に就いたのは、日本で働いている友人から「タイ人街なので安全に稼ぐことができることを知ったから」と言う。現在の1か月の収入は、「月に50万円ほど」で、タイの両親に仕送りはしていない。セックスワークを始めたことで変わったことは、収入を貯めて、タイでSRSを行ったことである。仕事を始めるにあたっては、「タイ人のコミュニティで借金をして」日本に来たが、「借金は最初の年に返し切りました」と言う。休日は日本人の「彼氏」と会う。「彼氏」は複数いて「お金貰って」いる。

SNSの利用は、Instagramで友人とつながっているくらいで、家族とはSNSをふくめどんな連絡も取っていない。移住するにあたっては、日本に家族がいる友人が、タイ人街であるこの町を紹介してくれた。来日の際、特別な約束や契約はしておらず、その友人が、共用部屋の使用の仕方などセックスワークをするための環境を与えてくれた。

移住を後押ししたのは何かと問えば、「私は他に能力が無く、タイのトランスジェンダーは何かの能力が無いと稼ぐことができません。この状況でトランスしたいと考えた時に、セックスワークをしている人達がいることを知り、同じように稼いで、手術をふくめてトランスするた





ら嫌だった」し「店の衛生もよくなかった」が、2軒目の後に「結婚して辞めたら誰も話す人もなくなってお金も自分のでなくなつて、それが無理」で、現在の店に勤めるようになった。現在の店は、「店と女の子の取り分が半分ずつ」で搾取がなく、「ガイジンはほとんどいない」が中国人の友だちができ、「店長もお客さんもおとなしく」非常に良いと思っている。

今はコロナで店がほとんど営業せず、人の紹介などでサービスして1回1万円をもらう。ほとんど稼げないが「本番はやらない」。休む前は、毎日2万円ほど、月に40万~50万円の収入があった。離婚後コロナ前までは1年に1回正月に帰省し、両親などにも1回10万円渡していた。結婚していた時は少額だった。

セックスワークを始めてから変化したことは、「何も知らなかったのがいろいろ知ようになった」ことと言う。周囲の人については、中国の友人にも家族にも詳しいことは知らせていない。日本で元気に暮らし安定してお金を稼いでいることを、友人たちは「成功」と評価している。両親は喜んでいるが、今は収入が不安定なので心配している、と言う。

移住して仕事をするために「200万円の手数料」が要求されたが、貯金も親に借りることもできなかったため後払いにしてもらった。最初の店での3か月の滞在期間にそれを返済。だが、「後から考えたらもっと稼げたのに店にすぐ取られていた」と悔しがり、その店は、「女の子たちは長期滞在ではないので関係なんてできなかった。同じ出身地の先輩がいて仕事の仕方とか面倒を見てくれた」と言う。一方で、仕事を始めるためや移住するために借金をしたか、と言う問いには「していません」と答えている。

性労働を続けている理由は、「お金がいいから。中国に帰る気がないし、日本ではこの仕事しかできないから。主婦は嫌だから」。休日は、コロナ前は1週間か2週間に1回で、友だちや今の日本人の「彼氏」と遊びに行っていた。現

在は休みばかりだと言う。

大まかな人間関係は、最初の店も2軒目も「中国エステ」で、だいたい同じ地方の出身者が集まっていた。2軒目は「ママ」も同郷だった。その2軒を紹介した「お姉さん」とは今は連絡を取っていない。「お姉さん」を紹介した友だちとは連絡もし、帰国時には会う関係を保っている。

来日し性労働を始めるにあたっては、約束や契約はなかったが、『マッサージ』は嘘ではなかったけれど、ほんとうでもなかった、しかし、賃金や誰が働いているか、日本ではどんな生活になるかといった説明は「嘘ではなかった」と言う。3度の来日とセックスワークを続けることを後押ししたのは、前述通り「お金。それと冒険」に尽きる。

問題が起こった場合の相談相手はいる。一緒に働いていた友だちや今一緒に働いている友だちの中国人で、これも同郷の人ばかりである。しかし同郷でも「この仕事をしたことがない人には相談しません」と言う。今の店では、嫌なお客や無理を言うお客がいたら店のスタッフが注意するから問題にならない。お金も「正しくもらっている」し、今は配偶者査証を持っているため、「中国エステ」の時のように、警察と入管がいつ来るか心配したり、隠れて暮らす必要がない。「問題はコロナで仕事がないことだけ！」と結んだ。

STD 予防やその阻害をふくむ暴力については、「2軒目の店でお客にレイプされ」、それがその店を辞めた原因だったと言う。他には暴力行為にあったことはないが、『中国エステ』は本番しようと思えばできるから、やろうとする客はいた。しかし、1件のレイプ以外は本番はしなかったから、予防は必要なかったと言う。1軒目と2軒目の店にはコンドームは置いていなかった。最初の店は「女の子同士」も親しくなる機会がなく、情報や支援が少ないことが「キツかった」。今は、「手でする時もコンドームをすることになっている」が、コンドームは

自分で買う必要がある。STD 予防はコンドームのみで行っており、店の方針、周囲の同調があり、入手が容易なため容易、と言う。また、「本番やらせろみたいな客がいたら、すぐに店の人を呼んできてもらうから大丈夫」で、「店全体が本番なしだから、警察も大丈夫」と言う。ただし、現状では、店でなく客の部屋に行くことがあるため、それが不安材料になっている。

STD 予防に責任があるのは自分で、コンドームがつけられなければサービスはしない方針を守っているため性病に罹ったことはない、と言う。一方で、これができたてきたのは「店のスタッフが守ってくれるから」とも言っている。同業者へのアドバイスとしても、「いい店に勤めること」を勧めている。しかしそれには「運も大きく」「日本語ができることが大きい」。したがって、「日本語ができないといい店も探せないし、騙されるし情報が入ってこないから、日本語をちゃんとやった方がいい」とも言う。また、上記のとおり同じ仕事をしている同郷の人が重要で、それは、中国人の中にもこの仕事をしていることを言えない相手が多く、中国人だというだけで助けになるとは限らないからである。

STD 予防やその情報については、「よくわかりません」と答え、とにかく本番をしなければいいと思っているが、「やられたらどうするか、元の夫も客だったし、彼氏も客だったから、どこかで性病になってくるかもしれない」ことが不安である。しかし、中国語の情報から病院のめどは立っており、ここでも「責任は自分にある。自分がしっかりするしかない。あとは友だちは大切」と繰り返した。

検査については、店が定期的に行い費用は給料から引かれていたと記憶している。「指から血を採る」HIV と梅毒感染を検出するキットで、店が用意し店が検査に出し結果も店から受け取っている。

地域の保健所で無料の STD 検査が受けられることについては知識がなく、その理由は「そ

んなに注意して見ていないから。中国語の情報で、中国人の同じ仕事の人たちの間でやり取りされない、見ないです」と言う。そして、この知識を得た今後も保健所で受検しないだろうと言い、その理由として、今の検査が簡単なこと、「仕事がある間は値段は気にならない」こと、同僚も同じ検査をしていることを挙げた。

搾取や暴力の対策や支援については、最初の店で賃金を搾取されたことと、2 軒目でレイプされたことを振り返り、最初は無知で、2 軒目の時も「まだよく人間を知らなかったから」「自分を守れませんでした」と言う。そして、「今は違う。運もあるけど、気を付けて人を選ぶ、店を選ぶ、そのために準備するしかありません」とまた自己責任を強調した。しかし、最初は搾取されていると気づかず満足して中国に帰ったことにも触れ、「知識がつくと、後から悔しいこともできてくるということもある」や、「レイプの後、2 軒目の店のママは知らないふりをした」や、「強制送還されるので警察にも病院にも行かなかった」とも述べた。この時相談に乗って精神的に助けてくれた別の客と後に結婚し、3 年後に離婚している。

行政の役割と影響については、「警察とは近づきになりたくありません」と言い、「中国エステ」で警察や入管による逮捕・送還を恐れていた思いを繰り返した。法律や規制による権利侵害を受けていると思うかどうかの問いには、「今は定住者なので、思いません」と答え、「前は権利はなかったと思います。でも自分で決めてきたからしかたないです」と付け加えた。警察他、民間を含む組織の支援については、日本の警察や入管に助けてもらったことはない点と、支援を受けたくもない点、自分は人身取引ではなく自分で来日したので、自助と同僚・友人と助け合う重要性を繰り返した。

この仕事や移住をする必要がある人々やしようとしている人々の利益のために、行政や関係組織に求めることについては、「送還しない、快適な生活ができて友人関係が保てるように仕事

をさせてくれる、と言うなら、何かしてくれることがあれば関わってもいいです。例えば、年を取ったら、病気になったらどうしようと思うので、その時には悪口を言わずに助けてほしいです」と言った。

## D. 考察

### 1. ソシオグラムの説明

上記研究結果に掲載したネットワークソシオグラムは、聞き取りから得られた人間関係（人的ネットワーク）情報を元に **VenMaker** というソフトウェアを利用して作図したものである。ここでは、このソシオグラムについての考察を中心に行う。同情報は、上記の聞き取りのテキストデータ中にもふくまれているが、テキスト上のその他の情報は、ソシオグラムに考察を加える際にはいわば戻って参照し、「隙間を埋める」ことのできる情報である。

中心の **EGO** が聞き取り相手（①Tさん、②Rさん）を、直線が関係を表す。**EGO** と直線で結ばれた□や○の印が、各アクターである。アクターには制度的な関係者や組織（□）と、個人（○）があり、個人はわかる範囲で男女に区別されている。

同心円は重要度の段階を示し、中心から離れるにしたがって、**EGO** とアクターとの関係の重要度は低くなる。そして、4象限は、緑：ホスト国（日本）、赤：ホスト市町（①関東某町と②関西某町）、黄：第三国（本報告の2ケースには無関係）、青：送り出し国（①タイと②中国）を示している。

線の種類は、実線がセックスワーク、破線が非セックスワークにおける関係を、線の色は、赤が金銭の支払いなど物質的な、青が相談に乗るなど非物質的な関係を、黒が逮捕などネガティブな関係をそれぞれ示している。不明の部分も多い。

### 2. パイロットケースの考察

#### ① Tさんのケース

Tさんのケースで一目瞭然なのは、**EGO** とその他のアクターの関係が他の関係から独立している点である。言い換えれば、Tさん以外の関係者同士はつながりを持っていないか、つながりがあっても聞き取りにはそれが現れていない。また、出身国タイとの関係は重要度、頻度ともに低く、つまり希薄で、かつセックスワークにかかわるものがない。濃密と言える関係は、ホスト市町である現在暮らし働いている「タイ人街」における同業者との関係のみである。ここには重要性だけでなく物心両面のサポートがあり、かつ心的（非物質的）関係は双方向的である。複数の「彼氏」との関係も物心両面的である可能性がある。

聞き取りデータに戻って総合的に考えると、Tさんは、STD 予防・受検や行政の役割に関するものなど回答していない質問が多いことや、タイの人間関係について、切れていることを繰り返す以外に何も語ろうとしていないことが、ソシオグラムによく表れていると言える。Tさんの人的ネットワークは、現在のタイコミュニティ同業者以外とのもの以外希薄で、したがって、人的ネットワークに代表される社会的資源も、このコミュニティの外からはほとんど調達できていないことが考えられる。もともと脆弱な立場に置かれ、だからこそそこから抜け出しにくい外国人 SW 同士のネットワークのみに頼っている Tさんの現状は、その脆弱性を克服するために有効な社会資源にアクセスすることを難しくしている、とも言える。

ここから、STD 予防・受検に関係するつながりについては、現在まったく表現されていない **EGO** 以外のアクター同士のつながりを構築することが重要であるように思われる。例えば、医師と警察がタイ人 SW 同士のつながりと連携し、 Condom を拒否するなど暴力を未然に防ぐ必要性を共有し、方法を考案したり、事後の手当てや加害者処罰を本人に負担をかけずに行ったりすることが想像できる。あるいは、医師と保健所がタイ人コミュニティと連携して、今



Rさんに不足している、日本における検査や医薬情報を提供するネットワークを構築することが想像できる。これらは、SWが脆弱性を克服するための社会的資源そのものである。

## ② Rさんのケース

Rさんの場合は、現在生活しているホスト市町と出身地に関係が集中している。とくに日本における関係は、ネガティブなもの、物心両面、セックスワークか否かといった種類の他、重要度と頻度も多様であることが現れている。そして、僅かではあるが、EGO以外のアクター同士のつながりがあることも表現されている。それは、出身地中国とホスト国日本双方において同僚が関係するつながりである。換言すれば、Rさんと同僚との関係は一对一の場合よりも複雑であり、かつ、出身地でも移住先でも独特の影響を持っているということである。もう一点目を引くのは友人である。頻繁に登場し、SWに限らないが同郷に限る友人たちが物心両面の関係をもたらしている。

聞き取りデータに戻って総合的に考えると、まず日本における関係が多様なことは、Rさんの日本滞在歴が長く、回数もその都度の査証の種類もセックスワークの業態も違い、結婚離婚をふくめ日本での経験が豊かであり、そのため話題が多いことを反映している。そして、飛躍を恐れずに解釈すれば、出身地と現在の生活地が、国や制度的な介入をほとんど経ることなく、Rさん自身と同郷の友人や同僚との関係およびその人たち同士の関係によってつながっている、と言うこともできるだろう。

このネットワークの特徴は、興味深いことに、「自分が決めてきた」「責任は自分にある」「自分がしっかりするしかない」といった、Rさんの自己責任論に、つねに友人が関係していることを端的に表している。もっと言えば、Rさんにとって責任もって自己決定を行うべき「自己」とは、友人をふくむ「自己」であるとさえ考えられる。

ところが、STD予防・受検に関係するつながりについては、友人に紹介された医師以外は、Rさん自身との単独のつながりしか現れていない。このことから敷衍すれば、RさんがSTD予防・受検に関して脆弱性を克服する社会資源に近づくには、ネットワークの要点である同郷の友人と同僚に働きかけることが、少なくとも本人に働きかけるのと同等に重要と考えられる。

レイプとコンドームの拒否を含む客による暴力に対しても、事前に友人・同僚が介入し阻むことができるような環境を構築することが有効であろう。あるいは、現在本人に対するネガティブな関係しかもっていない警察が、事後にでも、救援や加害者処罰等ポジティブな介入をしてしかるべき、と確認することも可能である。

## E. 結論

TさんとRさんは、世代、ジェンダー、出身地、第一言語、日本滞在資格の種類、来日回数、日本語習熟度、そしてセックスワークの業態において、かなり異なる属性をもっている。それらを反映して、日本での人間関係も、出身地との関係もかなり異なっている。RさんはTさんに比べれば、多様なネットワークにつながっているため、一般的には脆弱性を克服する社会資源へのアクセス経路もさまざまであろうと考えられる。

しかし、本研究にとって肝心のSTD/HIV予防・受検に関係する点では、2人ともネットワークが希薄であるという共通点がある。そして、警察との関係がネガティブなものしかないと、(Tさんの場合は他のすべての関係が希薄な中でも)同郷・同業の友人や同僚との関係が重要なものであることも、共通している。また、医師(病院)との関係は希薄ながらも意識されてきており、対照的に、保健所の存在は、無料検査をふくめて、今回質問に答えることによって初めて認識されたことも共通している。

他の情報や関係についても同様であるが、現

在希薄な STD/HIV 予防・受検についての関係を強くするにはとくに、同郷の SW コミュニティに働きかけることが最も重要かつ効果的ということになる。そして、このコミュニティに対して医師・病院へのアクセスを現在より容易にすること、保健所の存在をアピールし頼られるものにするのが重要と言うことも、改めて確認できる。また、警察との関係も見直す価値がある。そもそも日本における法的立場が悪い外国人 SW と警察との関係は、とくに SW 側から見てネガティブなものにならざるを得ない。とはいえ、逮捕・送還を恐れて隠れるように暮らすことは、STD/HIV 予防・受検にかんするものをふくむ人的ネットワークの充実にとっての阻害要因であることも間違いない。たとえば、医師（病院）や保健所が、SW コミュニティとのつながりを求めると同時に、予防・受検の促進のために警察に働きかけることは、日本の政策的現実からほど遠いだろうか。

以上が、今回の 2 つのパイロットケースのみ、また、移民にとっての社会資源を明示する人的ネットワークのみ——その中でもとくに STD/HIV 予防の阻害に関する関係——に注目して得た結論である。今後、これを改善しながら他の聞き取り対象者にも適用し、より多様なソシオグラムをし利用して外国人 SW のネットワークを分析し、かつ聞き取りデータを解釈し、普遍的な脆弱性克服モデルを構築したい。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

### 1. 論文・著書発表

- 1) 青山薫, セックスワーク研究における当事者参加行動調査, 社会学評論, 2021, 71(2): 215-232

- 2) 青山薫, それほど新しくない「新しい家族」——同性婚の保守性・革新性, 落合恵美子編著, どうする日本の家族政策 (いま社会政策に何ができるか ③), ミネルヴァ書房, 2021:258-272
- 3) 青山薫, 性的なことは政治的 The Sexual in Political——市場・国家・宗教・人権・生存を問う「LGBT」, 日下渉, 青山薫, 伊賀司, 田村慶子編著, 東南アジアと「LGBT」の政治——性的少数者をめぐって何が争われているか, 明石書店, 2021: 347-374
- 4) 青山薫, コラム——十三の「中国エステ」で働くということ, 伊藤泰郎, 崔博憲編著, 日本で働く——外国人労働者の視点から, 松籟社, 2021: 399-312

## 2. 口頭発表

- 1) Kaoru Aoyama, Sex Workers and the Right Approach: the International Legal Framework, *Intersections: Global Dialogue on Gender, Development & Social Justice*, Asia Institute of Technology, Gender and Development Studies Program, 15/11/2021, Bangkok/Online
- 2) 青山薫, 日本における移民難民問題——「外国人」が暮らしやすい社会のどこが良いのか, 「移民難民問題と私たちの社会」, 神戸大学国際文化学研究所第 21 回公開講座, 2021 年 10 月 2 日, 神戸

## H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

## 調査協力をお願い

この調査は、国境を越えるセックスワークと、セックスワークにおける STI・HIV 予防にかんする研究の一部です（正確な研究題名は、一番下に書きましたのでごらんください）。研究の目的は、国境を越えてセックスワークをするみなさんにとって実際に役に立ち、かつ、みなさんの権利と安全を守るような対策を提案することです。また、外国人のセックスワーカーのみなさんと関係者にとって、STI・HIV の予防や検査や相談がしやすくなるためには、何が必要かを見つけ出すことです。

そのため、この調査では、さまざまな事情で国外から日本に来て性産業で働いているみなさんにインタビューを行い、来日の経緯や仕事にかんすること、みなさんとブローカー、トラフィックカー、サポーターなどとの関係がどのようなものかについてお尋ねします。これらから得たデータを分析することで、セックスワークをするみなさんの権利を守り、健康その他の危険や不安を減らすような好い仕事環境を作り出し、悪い環境を改善する条件と人間関係を明らかにしたいと考えています。

調査をする私たちは、以上の研究目的を達成し、かつ、みなさんの権利やプライバシーの侵害が起こらないよう細心の注意を払います。また、みなさんに次のことを理解しご同意いただくようお願いいたします。

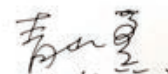
1. 聞き取りの時間は、およそ 1 時間半の予定です。短くなったり長くなったりすることがあります。1 回に 2 時間を超えることはありません。
2. 聞き取りに答えてくださった方には、1 時間につき 3000 円をお支払いします。
3. お支払いについては、領収書へのサインをお願いします。
4. 聞き取りは録音させていただきます。また、簡単な図表への記入をお願いします。
5. もしも録音 NG の場合は、その場でメモを取らせてください。
6. 写真や映像は調査のためには撮影しません。もしも記念のために撮影することがあっても、それは調査には使いません。
7. 聞き取りでは、プライバシーや辛い経験にも触れることがあります。ですから、答えたくない質問には答えなくてかまいません。
8. 途中で回答を中断してもかまいません。
9. 聞き取りに答えると決めても、聞き取りの前、その間、直後、その後のいつでも、「やっぱり嫌だから止める」などと、同意や答えを取り消すことができます。
10. 同意や答えが取り消された場合は、なるべく早く録音やメモなどの記録を破棄します。
11. 同意や答えが取り消された場合にも、聞き取りに使った時間分のお支払いをします。
12. 記録は、この研究・調査のため以外には使いません。
13. 私たち研究者と調査者以外にも、通訳や文字起こしの助手等がみなさんの聞き取りの記録を見たり聞いたりすることがあります。
14. 通訳や文字起こしの助手等がみなさんの聞き取りの記録を見たり聞いたりする場合には、その人たちにもみなさんの権利とプライバシーを守ってもらいます。
15. 記録は、関係のない人が見たり聞いたりしないよう、パスワードなどをかけて安全に保存します。
16. 調査の結果は、報告書や論文、本、プレゼンテーションなどの形で発表します。
17. 発表をするときは、みなさんや関係者に偽名を使い地名を変えるなどして記録を編集し、個人が特定できないようにします。

18. 報告書や論文、本、プレゼンテーションなどが発表された後では、その発表の取り消しをすることは不可能です。
19. 発表された報告書や論文、本、プレゼンテーションなどは、希望があれば、無料で、みなさんが理解できる言葉に翻訳してから差し上げます。
20. この「調査協力のお願い」には、この研究・調査の代表者が責任をもってサインをします。聞き取りが終わった後も、保管しておいてくださると安心です。
21. みなさんは、聞き取りの前でも後でも、いつでも、疑問や質問や相談があれば下に書いた代表者の連絡先、または、別に差し上げる調査者の連絡先にご連絡ください。
22. さらにお聞きしたいことが出てきた場合に、研究者または調査者から連絡して良いならば、電話、ショートメッセージなど、一番良い連絡方法と連絡先を調査者に教えてください。

以上です。ご協力に心から感謝いたします。みなさんの権利と健康と安全が守られることを願っております。

青山 薫（あおやま かおる / Kaoru AOYAMA）

署名



神戸大学国際文化科学研究科 教授  
厚生労働省科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）助成「HIV 受検勧奨のための性産業従事者  
や事業者等に対する効果的な介入に向けた研究」分担研究者

TEL : 090-9981-1562

E-MAIL : kaoru@tiger.kobe-u.ac.jp

大学所在地 : 657-8501 神戸市灘区鶴甲 1-2-1 神戸大学国際文化科学研究科